

RI第1890地区への GSE派遣団帰国報告

団長

吉崎広江 (東大阪東RC)



派遣先：R I 第1890地区 (ハンブルク市、シュレーシュビヒ・ホルシュタイン州、ニーダーザクセン州北部)

派遣期間：2013年5月21日より6月21日まで

地区ガバナー：Henning Kramer

訪問クラブ(担当日)：

- 9 RC Hamburg-Hafencity (21-27)
- RC Wyk/Fohr (27-29)
- RC Amrum (29-31)
- RC Oldenburg (31-04)
- RC Kappeln (04-08)
- RC Rendsburg / RC Mittelholstein (08-13)
- RC Buchholz i.d. Nordheide (13-16)
- RC Bordesholm (16-20)

総プレゼンテーション数：

10回(各クラブに1回ずつと、6/8地区大会 in Kiel)

総職業研修数：5日(ただし、時間は個人別に異なる)

訪問施設(全員で訪問した施設)：

ハンブルク市庁舎(市担当者よりプレゼンあり)、ブーフホルツ市長訪問、オルデンブルク市長訪問、カッペルン市長訪問、エアバス(工場見学)、ミニチュア博物館、IBA(国際建築展示場)、教会(6箇所)、ハーフェンシティ見学、バイオガスファーム(2箇所)、風力発電所(2箇所)、太陽光発電ファーム(2箇所)、美術館(2箇所)、博物館(4箇所)、灯台ツアー、風車ツアー、城・邸宅(3箇所)、療養所、キール運河鉄橋、ELAC(スピーカーメーカー)、エッペンドルフ(工場見学)、アウトレットセンター、和牛牧場

アクティビティ(全員で参加した活動)：

バルト海湾岸クルージング、原野をめぐる馬車ツアー、リュベック市観光、フレンスブルク観光、デンマーク訪問

ホストファミリー数：31(うちホテル1、ドミトリ1)

(まとめ)

乗り換えを含め16時間かかってやっと到着したハンブルク空港では「ようこそハンブルク」という日本語の

看板を手に、ガバナーのクラマーさんをはじめ、最初の受け入れロータリークラブのみなさん、以降のホストファミリーのみなさんが花束を手に迎えてくださいました。思えば、きつい日程のプログラムではありましたが、出会うすべてのみなさんの暖かさとおしやすさが、この時の暖かい歓迎に現れていたのだと思います。

私達のプレゼンは、地区紹介、大阪紹介、自己紹介、震災支援の現状説明、歌(上を向いて歩こう)の5本立てで長いものですが、ほとんどのところが夜間例会であったため、時間の制約なく全部を披露することができました。時には歌を聞き、東北の様子に涙して下さるロータリアンの方々に触れるうちに、私達も現在起こっているドイツ南部の洪水に対し、何かできる事がないのかと感じるようになりました。

結局最後のお別れパーティで、担当クラブの方のご好意で着物をチャリティオークションすることができました。国がちがっても、ロータリアンの気持ちは同じとここでも感じた次第です。

最初の1週間は凍えるような気候ではありましたが、どんどん進化を続ける都市ハンブルクの「今」に触れ、その後の2週間は、良い天候の中、北海からバルト海へと沿岸の島やフィヨルドの自然に触れ、最後の1週間は内陸をめぐるこれまでの訪問を振り返り私達から何かを発信できた良い旅であったと思います。

詳しい報告は、今後団員と一緒に詳細版をまとめる予定ですが、この研修に参加したことで、5人のメンバー全員が忘れがたい思い出と一生の経験を得ることができました。両ガバナーには、すばらしい機会をいただいたことを御礼申し上げます。また、すべてのプレゼンテーションにもれなく出席して下さった第1890地区GSE委員長のJanusさん、送り出してくださった第2660地区GSE委員会のみなさん、受け入れてくださったすべてのロータリアンとご家族、推薦クラブのみなさま方のご支援があつてのことと、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

Vielen Dank!